



東急子ども応援プログラム



「第1回 東急子ども応援プログラム」 完了報告書

2021年11月



子どもたちへの約束

- ・ヒミツはまもる
- ・名まえは言わなくていい
- ・どんなことも、いっしょに考える
- ・でんわやチャットを途中で切ってもいいんだよ
- ・いつでもかけてきてね

フーン
きうんたが

*チャット
文字でお話ができます



第1回 東急子ども応援プログラムを終えて

東急子ども応援プログラムは、子どもたちやその家族が安全・安心で心豊かに暮らせる生活環境づくりをサポートする市民団体の活動を助成するプログラムとして、2020年7月からスタートしました。東急線沿線地域で行われる活動を公募・選考させていただき、1年間の活動に助成します。

当社は100年ほど前に創業し、地域の皆さまと共にまちづくりを推進してまいりました。存在理念には「美しい生活環境を創造し、調和ある社会と、一人ひとりの幸せを追求する」と掲げています。子どもたちを取り巻く課題が複雑化する一方で、そこに向き合う市民活動も活発になっている今、当社も地域社会の一員として、子どもたちの幸せを支える活動を応援したいと考え、本プログラムを開始しました。

公募受付の期日は、2020年3月初旬。新型コロナウイルス感染症が急速に拡大し、全国一斉休校となった時期でした。6月の選考委員会はオンライン会議となりましたが、丁寧な議論を経て10の活動への助成を決定しました。選考委員からは、「コロナの影響で子どもの置かれている状況がどう変化しているかに注目していくべき」という助言もあり、家庭や学校という日常が激変してしまった今だからこそ、子どもたちに寄り添った、温かい思いやりにあふれる地域の活動が求められていることを実感しました。そして、助成先の10団体と個別にお顔合わせし、安全と健康に配慮しながら、計画の趣旨は変えずに活動できないか相談しました。

各活動は7月から段階的にスタートいただきました。対面をオンラインに切り替える、少人数にして複数回集まる、延期して落ち着いた時に開催できるよう準備を続ける、といった工夫を凝らし、秋には活動が本格化、期間内にほぼ全ての活動が完了しました。

活動を率いる団体の皆さんの高い志と日に日にパワーアップする困難を乗り越える力に、私ども事務局も、いつも勇気をいただきました。皆さんの熱い思いを外に伝えて活動の輪を広げたく、2021年春、ホームページ記事の「リーダーインタビュー」を立ち上げました。

1年を振り返り、木下勇選考委員長からも、励ましのメッセージをいただいています。「成長の真っ最中である子どもの1年は、本当にかげがえがない。子どもはなかなか自分で環境がつかれないのだから、こうした市民活動が継続されていくことが大切である。市民団体と民間企業が協働する本プログラムの今後に期待します」。

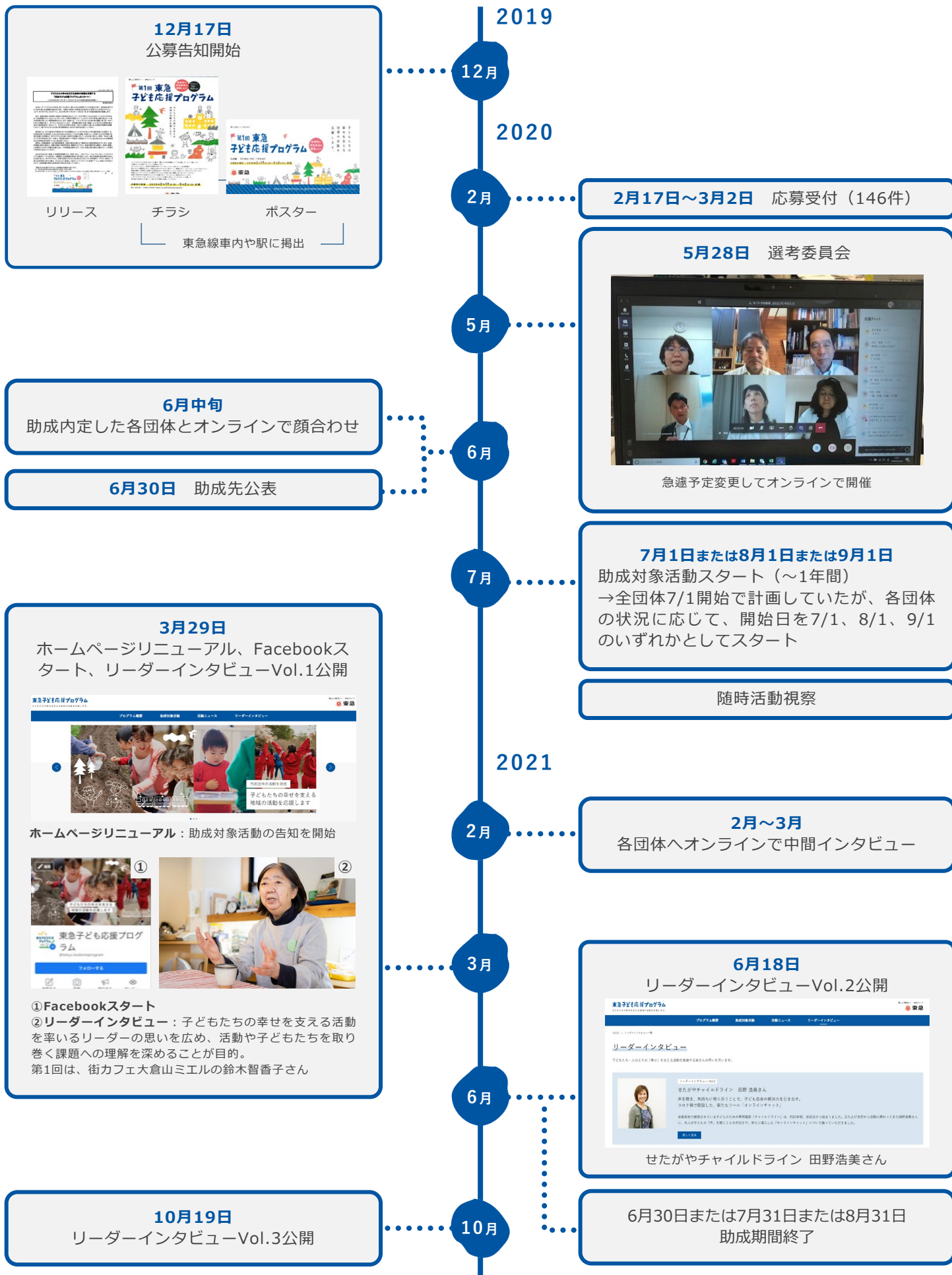
取り組みはまだ緒に就いたばかりです。まずは1年の歩みを記録に残し、気付きをお伝えすることで、温かい思いやりの輪を広げたいと考えます。引き続きご支援いただきたく、よろしく願い申し上げます。

2021年11月 東急株式会社 東急子ども応援プログラム事務局

団体名称50音順

助成対象活動一覧 (10件844万円助成)	団体名	代表者	助成対象活動エリア	助成金額
都筑産小麦でこどもたちが地元ブランド作り ～都筑こども小麦部 ▶P4	NPO法人 I Love つづき	理事長 岩室 晶子	横浜市 都筑区	60万円
「ドヤ街×子ども×食×アート×SDGs」 寿町の未来づくり ▶P5	認定NPO法人 あっちこっち	理事長 厚地 美香子	横浜市 中区	100万円
飛び出せ！おやまち部 ～学校の枠を超えたまちの部活動～ ▶P6	一般社団法人 おやまちプロジェクト	代表理事 高野 雄太	世田谷区	100万円
利用者の充実した体験を支援する事業 ▶P7	認定NPO法人 子どもセンターてんぼ	理事長 影山 秀人	神奈川県 全域	63万円
公立小中学校の子どもたちへミニコンサートを 届ける活動 ▶P8	NPO法人 子どもに音楽を	理事長 徳永 扶美子	東急線沿線 全域	66万円
子どものきもちに直接つながるオンラインチャット事業 ▶P9	社会福祉法人 世田谷ボランティア協会 せたがやチャイルドライン	運営委員長 田野 浩美	世田谷区	100万円
外国につながる子どもたちの居場所 「地球っ子教室」 ▶P10	認定NPO法人 地球学校	理事長 丸山 伊津紀	横浜市 神奈川区	55万円
子ども チャレンジスポーツ！～障がい児・健常児 みんなで「やってみよう！」「手伝ってみよう！」 ▶P11	NPO法人 BLACKSOX	理事長 西野 耕太郎	東急線沿線 全域	100万円
コミュニティカフェを基地にして「自由な居場所」を 子どもたちと作るプログラム ▶P12	NPO法人 街カフェ大倉山ミエル	理事長 鈴木 智香子	横浜市 港北区	100万円
萌カフェ (子どもも家族も楽しめる支援の拠点を目指して) ▶P13	NPO法人 レスパイト・ケアサービス萌	代表理事 中畝 治子	横浜市全域	100万円

活動履歴



都筑産小麦で子どもたちが地元ブランド作り ～都筑こども小麦部

団体名：NPO法人 I Love つづき



● 団体紹介

都筑区の生涯学習学級グループで、環境講座を実施したメンバーが中心となって設立しました。環境問題を自分自身のこととして受け止め、地域のさまざまな団体と協力しながら環境問題やまちづくりなどに取り組んでいます。（設立1999年）

● 助成対象活動の目的と概要

子どもたちが、障がい者も含めた多様な大人と触れ合い、豊かな体験ができる場を提供することが目的です。都筑区の畑で無農薬の小麦を栽培・販売する福祉施設「都筑ハーベストの会」と連携して進めました。最初に「都筑こども小麦部」を設立。畑では、小麦の種まきや麦踏み、野菜の収穫体験などを行い、シェアリーカフェでは、小麦について学ぶ「小麦の学校」や地元の菓子工房との会議を開催して商品を開発。子どもたちが種まきから関わって育てた都筑産小麦で作られたクッキーやパンの販売を行いました。

● 助成対象活動の実績（2020年7月～2021年6月）

● 7月「都筑こども小麦部」の公募開始

小学1年生～高校生まで36名が参加

● 都筑ハーベスト南畑での活動

- ・ 8/22 夏野菜の収穫体験
- ・ 11/14 小麦の種まき&さつまいも収穫体験
- ・ 2/6 小麦の麦踏み
- ・ 5/8 小麦の手入れ&新玉ねぎ収穫体験

● シェアリーカフェでの活動

- ・ 12/26、3/29、6/5「小麦の学校」
小麦について学び、商品アイデアを出し合って人気投票
- ・ 4/14 地元の菓子工房など4商店と商品検討会議
- ・ 6/17 パッケージデザイン・商品名会議（7/25に販売開始）



①「都筑こども小麦部」メンバー募集チラシ ②何度も畑を往復した「麦踏み」体験 ③商品化した「つづきさん」のパンやクッキー ④「小麦の学校」で商品のデザインを検討 ⑤小麦の収穫体験

この1年間の成果

都筑の街の大切な資源である「畑」が子どもたちの原風景となり、豊かな育ちに役立ってほしいと願い「東急子ども応援プログラム」に応募しました。助成があったことで「生きていくのに必要な食のモトが生まれる畑から収穫されたものが、社会で売られる商品になるまで」という、子どもたちが普段の生活では体験できない活動の場を提供することができました。子どもたちと一緒に活動してくださった福祉施設の障がい者の方たちや、商品化に関わってくださった地元商店の方たちもまた、楽しんで活動していただきました。コロナ禍でも、工夫しながら子どもの体験活動をすることにチャレンジできたのは、大きな成果です。



団体名：認定NPO法人 あっちこっち

● 団体紹介

「アートでまちとひとを元気にします」という理念のもと、普段の生活の中でもっと気軽に芸術を楽しめるよう、若手アーティストと共に子どもを対象としたコンサートやワークショップなどを行っています。（設立2011年）

● 助成対象活動の目的と概要

横浜市中区寿町、通称「ドヤ街」と呼ばれる町で暮らす子どもたちに、安心して芸術と食を楽しめる居場所を提供することが目的です。2019年にオープンした横浜市寿町健康福祉交流センターを会場に、全10回の「親子で楽しむ 子ども食堂とアート体験」を開催。毎回、アーティストや各種団体と連携して、地域の子もたち親子が、音楽・アート制作・ダンスなどの体験とテーマにちなんだ手作り料理を楽しむ場をつくりました。

● 助成対象活動の実績（2020年7月～2021年6月）

「親子で楽しむ子ども食堂とアート体験」横浜寿町健康福祉交流センターにて全10回実施

- 9/29「はじめまして、楽器で自己紹介しよう」×「みんなが大好きなオムライス」
- 10/27「カラフル切り絵でハロウィーンのお化けを作ろう」×「切り絵野菜のカレーライス」
- 11/24「秋の野菜にちなんだ音楽メドレー」×「秋の野菜たっぷりピザとスープ」
- 12/22「クリスマスプレゼントを作ろう」×「クリスマスと言えばチキンとマッシュポテト」
- 3/9「鬼になる？鬼がくる？さぁみんなで豆まき Dance☆」×「お豆がおいしいチリコンカーン」
- 3/23「ひな人形を作ってひな壇を飾ろう！」×「ちらし寿司（お弁当）」
- 4/6「新学期の書き初め」×「鶏団子ののり巻き（お弁当）」
- 4/20「桜にちなんだ音楽メドレー」×「春野菜たっぷりピラフ（お弁当）」
- 5/11「鯉のぼりになろう」×「かぶと（兜）べんとう（お弁当）」
- 6/8「雨の音を作ってみよう」×「元気になるカレーライス」



- ①「雨の音を作ってみよう」×「元気になるカレーライス」
- ②「新学期の書き初め」×「鶏団子ののり巻き」
- ③みんな一緒に食べた「元気になるカレーライス」
- ④3月のイベントでは「ちらし寿司」をお持ち帰り
- ⑤12月チェンバロとヴィオラ・ダ・ガンバでクリスマスソングを演奏

この1年間の成果

子どもたちの文化的教育は、数十年先の地域活性化や広域における文化水準向上に必要なものと考えています。だからこそ、この1年間さまざまな弊害に見舞われながらも、気持ちを切らさずに多くの工夫を凝らし、予定していた10回の活動を実施できたこと自体が何よりの成果です。

また、困難の中で進めることで、徐々にアーティスト・食堂部・スタッフとの間にも信頼関係が生まれ、有意義なコミュニケーションが増えました。すべてが思い出深い活動ですが、特に最後の6月の活動は、新型コロナウイルス感染症に配慮して会場での食事を再開し、理想的な形で実施できたことで、今後につながる有意義な機会となりました。

飛び出せ！おやまち部 ～学校の枠を超えたまちの部活動～



団体名：一般社団法人 おやまちプロジェクト

● 団体紹介

世田谷区尾山台周辺地域に関わる人々が、地域資源を活用し、より豊かな暮らしを実現できる環境づくりを目的に、歩行者天国の活用やサロン活動などを行っています。課題解決や目標の達成を目的にせず、誰かのやりたいことを手伝いたい人が楽しんで手伝う。その場でまた新たな仲間に出会う。するとまた活動の幅が広がる。そのようなつながりを生み、積み重ねてきている団体です。（設立2017年）

● 助成対象活動の目的と概要

子どもが自己肯定感・自己有用感を高め、自己実現の機会を獲得できるプラットフォームをつくることを目指し、尾山台の商店街で地域全体を学びの場と見立てて、子どもたちの居場所となる「おやまち部」を設立しました。この取り組みは、子どもたちが地域で多世代多様な人とつながり、安心・安全を感じられるコミュニティ形成にも役立ちます。商店街の歩行者天国と連動した活動はかないませんでしたが、子どもたちが尾山台というまちについて考える中から出てきた取り組み（まちのキャラクターづくり）や、子どもが記者となって地域の大人に取材する新聞発行を行いました。

● 助成対象活動の実績（2020年9月～2021年8月）

- まちの部活動の創設：10/6活動開始
- 「マイプロ」ワークショップと実行：ワークショップ5回、実行（キャラクター作成）7回 合計12回
- 中学生向けウェルビーイングスタディツールの開発協力 11月、1月、3月の3回
- 子ども記者による新聞作成ワークショップ 2回
 - ・ 4月「商店街でテイクアウト食べ物を紹介しよう」参加者 8名
 - ・ 8月「普段出会わない大人から尾山台の魅力を聞こう」参加者 12名



- ① 4月29日発行「おやまち新聞」
- ② 尾山台商店街のケーキショップを取材
- ③ 東京都市大学の白木教授へ尾山台の魅力を取材
- ④ 「おやまち部」キャラクター

この1年間の成果

この活動を通じ、まち中に新たな出会いやつながりを生み出すことができました。普通に生活していたら出会うことのない大人や大学生と一緒に過ごすことで、子どもたちにはたくさんの気付きや学びがあったと思います。心を許すことのできる大人が身近にいることは子どもたちの安心・安全な暮らしにもつながっていきます。

おやまち部がきっかけとなり、尾山台中学校では総合的な学習の時間を使った実践的な授業を開発し、さらに、中学校での取り組みを事例として尾山台小学校でも新たなプロジェクトが立ち上がりました。

尾山台地域で「子どもを軸にした新たな学びとつながりの輪が広がり始めていること」が成果です。



● 団体紹介

子どもたちにこそ一流の音楽を聴いてほしいとの願いから、一流の演奏家によるクラシック音楽の演奏を小学校・中学校の子どもたちに届ける活動を行っています。（設立2006年）

● 助成対象活動の目的と概要

一流の演奏家によるクラシック音楽を間近に聴き、演奏家の息づかいや楽器の響きなど、機械からでは感じることでできない感動を味わい、子どもたちが感性豊かな人間として素晴らしい人生を送る「手助け」になったらと考えています。これまでの活動エリアを広げ、新たに大田区の小学校で実施することができました。クラシック音楽に触れあう機会の少ない公立の小中学校の授業の中で実施することにこだわりました。

● 助成対象活動の実績（2020年9月～2021年8月）

- 10/21 大田区立多摩川小学校 5年生 約90名（ヴァイオリン：大林修子、ピアノ：小森谷裕子）
- 12/22 大田区立矢口西小学校 5年生 約100名・6年生 約100名（チェロ：木越洋、ピアノ：梅村祐子、朗読：木越明）
- 2/4 大田区立志茂田小学校 3年生 54名（ヴァイオリン：漆原啓子、ピアノ：林絵里）
- 3/11 トキワ松学園 中高生 約30名（チェロ：横坂源、ピアノ：沼沢淑音）※緊急事態宣言により、私学でも急遽開催。5校目は延期



①10/21 大田区立多摩川小学校での演奏会 ②2/4 大田区立志茂田小学校での演奏会 ③12/22 大田区立矢口西小学校での演奏と朗読会 ④3/11 トキワ松学園での演奏会

この1年間の成果

コロナ禍で開催が難しい状況の中で、4校で演奏会ができたこと、そこに参加した子どもたちからの「演奏を聴いて自然と笑顔になれた」「きょうの演奏が僕の心に強く影響を与えてくれる事を確信した」「始まった瞬間からブワッと鳥肌が立つほどすごかった。なんだかとても緊張。これだけすごい演奏を生で見られるのだから緊張するのかな、と思った」といった感想をいただけたことが最大の成果です。

最初は活動の意義がうまく伝わらない学校もありましたが、実際に一流の演奏家の演奏に生で接することで、その大切さを理解していただけたことも成果の一つだと思います。



団体名：社会福祉法人 世田谷ボランティア協会 せたがやチャイルドライン

● 団体紹介

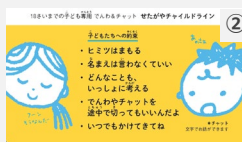
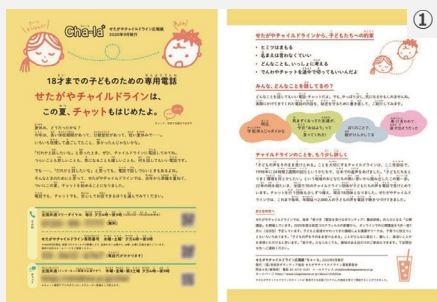
子どもたちが安心して生きられる社会をつくることを目的として、子どものためのチャイルドライン、ボランティア育成、普及啓発などに取り組んでいます。チャイルドラインは子どもたちとの5つの約束「1.ヒミツはまもるよ」「2.名まえはいわなくてもいい」「3.どんなことでも、いっしょに考える」「4.イヤになったら、切っていい」「5.いつでもかかてきていい」を守りながら、大人の価値観を押し付けず、子どもたちの言葉に耳を傾け聴き続けることで、子どもが自分自身の力を発揮できるよう援助しています。（設立2000年）

● 助成対象活動の目的と概要

コミュニケーションツールの変化により、子どもたちのコミュニケーションの方法も変化しています。電話が使えない子どもの声を受け取り、地域で生きづらさを抱える子どもたちが生きやすい社会づくりに貢献するため、新たにオンラインチャット事業を開始しました。規程や機材の整備、受け手養成の後に、広報をして本運用を開始し、助成終了時には事業報告会を開催、実施結果およびその効果と課題について報告を行いました。この時期に開始できたことが子どもたちの安心につながったと考えます。

● 助成対象活動の実績（2020年8月～2021年7月）

- ①規程類の整備：8/25 「情報セキュリティ基本方針」をホームページに公開
- ②機材の整備：8月 パソコン・USBメモリ・保管庫の確保
- ③教育・研修（受け手養成）：第1回 8/22・23 参加者21名、第2回 6/19・20 参加者32名（オンライン）
- ④テスト運用：9/3
- ⑤広報：・子どもたちにチラシ・カード配布（9月・2月・6月に各10万枚。世田谷区の学校経由で配布）
・地域の支援者への広報（世田谷ボランティア協会情報誌、ニュースレターなど）
- ⑥本運用：9/17よりオンラインチャット本運用開始。2021年7月までに合計24回実施
- ⑦チャットの分析と発信：7/4 オンラインチャット事業報告会・ワークショップ @東京都市大学二子玉川キャンパス



- ① オンラインチャットの開始を伝えるため、小・中学生を中心に10万部配布したチラシ
- ② 世田谷区の子どもたちに配布したカード
- ③ オンラインで実施したチャット受け手養成講座
- ④ 7/4に開催した事業報告会チラシ

この1年間の成果

1998年より子どもの声を電話で聴いてきましたが、子どもたちの間でスマートフォンやタブレットなどインターネットの利用が高まっている現状を踏まえ、チャットで子どもの声を聴きたいと2019年より準備を進めてきました。PC機器購入などに課題を抱えていましたが、助成を受けたことで設備や人員体制も整い開設することができ、電話とチャットの両方で子どもたちの声を聴くことができるようになりました。

コロナ禍で子どもたちがさまざまな制限を強いられることになった今、子どもたちの不安や問題を一緒に考えることができたこと、それらを通して見えてきた子どもたちの姿を、地域の皆さんへ発信できたことが大きな成果でした。



● 団体紹介

外国人および日本人に多文化交流を推進する事業を行い、広く国際協力の推進に寄与することを目的として、日本語教室、地球っ子教室、多文化交流などに取り組んでいます。今回助成を受ける「地球っ子教室」は、親の都合で来日した外国につながる子どもたちを対象に日本語の指導・学校の教科学習の支援・子どもたちが安心して過ごせる場を提供する取り組みで、2003年に開始して以来、毎年延べ1,000名の子どもたちが通っています。（設立2000年）

● 助成対象活動の目的と概要

「地球っ子教室」の充実を図ります。利用者の増加に対応するためのスタッフの増員、外部専門家を招いた運営委員会や研修を通じて、子どもたちそれぞれの心理面も含めた現状に寄り添い、日本で支障なく生活し、学校で学び、望む進路や夢をかなえるサポートを行いました。

● 助成対象活動の実績（2020年9月～2021年8月）

● 教室運営

- ・「土曜教室」 対面開催16回（9/5～1/9）、オンライン開催9回（1/16～3/13）
対面・オンライン同時開催13回（4/10～7/10） 計38回
参加者延べ 366名、支援者延べ 441名
* オンライン期間には、IT環境が整わない中学生と既卒の受験生は「郵便」でプリントをやり取りし、数学や英語学習を指導
- ・「春休み教室」 対面・オンライン同時開催1回（3/26）
- ・「夏休み教室」 対面・オンライン同時開催3回（7/28・29・30）、オンラインのみ2回（8/19・20）
参加者延べ 対面23名、オンライン32名、支援者延べ 57名

● 漢字学習会

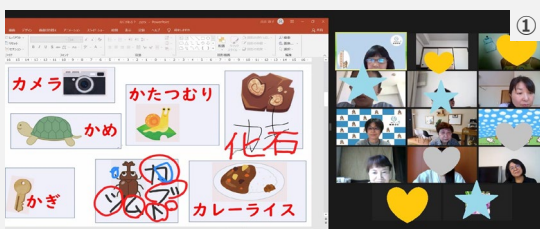
「漢字王決定戦」（対面・オンライン同時開催）10/3、3/27 参加者25名、支援者延べ 30名

● 運営委員会

全2回（3/18、7/22）

● 研修講座

全3回 第1回内部研修講座 5/22「やさしい日本語」参加者28名
第2回内部研修講座 6/19「リライト講座1」参加者19名
第3回内部研修講座 8/5「リライト講座2」参加者13名



① 幼児や低学年の子どもには、オンライン授業が飽きないよう工夫



② 教室とオンライン、ハイブリッドでの「漢字王決定戦」



③ 感染対策を講じての対面教室

この1年間の成果

助成期間の1年間、地球っ子教室は今までにない体験の連続でした。コロナ禍で振り回されるのではなく、「今、わたしたちに、何ができるのか」を優先して活動の方法を模索し、新しい形での教室維持に取り組みました。地球っ子教室で大切にしている「いつもの時間に、いつもの場所で、みんなであう」ことを継続しつつ、新しいスキルにも積極的にチャレンジしました。そのおかげで、個々の支援者の意欲が増すとともに、多様な支援者の連帯感が創出されたのは予想以上の嬉しい産物でした。オンライン上だからこそ重要な「やさしい日本語」を学んで、子どもと支援者、支援者同士、互いの理解を深められたことも大きな成果です。



● 団体紹介

子どもたちが地域社会に出て心と身体を動かすことに「チャレンジ！」することで、「楽しい！出来た！くやしい！伝わった！役に立った！」を感じることでできる場を創ります。子どもたちの達成感や自己肯定感を高めることで、新しいことに「チャレンジ！」する心・相手を想う心・心身の健康などを育む活動を行っています。（設立1999年）

● 助成対象活動の目的と概要

障がい児、健常児が共にスポーツを通じて、「出来た！」「相手に伝わった！」という達成感を感じて自己肯定感を高め、新たな目標にチャレンジする心を育むことが目的です。

新型コロナウイルス感染症の影響で、特別支援学校や健常児学校での「スポーツ体験会」の開催は見送りましたが、スタッフ会議やサポートの仕方を学ぶ研修を重ねてオンラインを活用した新たな開催方法を模索し、その集大成として、在宅と会場の子どもたちが一緒に楽しめるオンラインスポーツイベントを開催しました。

● 助成対象活動の実績（2020年7月～2021年6月）

①ミーティング（サポートスタッフ研修・打ち合わせ・振り返り会・連絡会）

・スポーツ施設にて24回 ・会議室またはオンラインにて18回

②オンラインチャレンジスポーツ！（イベント）6/27

障害者スポーツ文化センター横浜ラポール大会議室に集合した子どもたちと、在宅の子どもたちが、障がいの有無にかかわらず共に楽しめるオンラインスポーツプログラムを実施。他団体や社会人・学生サポーターと連携し、ICT機器を活用したイベントに初挑戦できました。



オンラインチャレンジスポーツ！

①自宅に届いたチャレンジスポーツ！のテニスボールでつながる在宅の子どもたち ②会場と自宅をつないで「トントン相撲」 ③会場から自宅のみんなへのメッセージボード ④車いすサッカーを体験する様子も中継 ⑤在宅の子どもたちに向けた、たくさんの応援メッセージ「会えるのを楽しみにしてるよ」「まってるよ！」

この1年間の成果

世界中の人たちが新型コロナウイルス感染症蔓延に直面する中、「みんなで応援しあう」ことの大事さを実感しました。この気持ちを活動に生かし、子どもたち、地域社会へ伝えることができたのであれば、それが一番の成果です。

①スポーツを通じて、子どもたちの健康的な心身の発達を支援すること、②スポーツで体験した「出来た」「伝わった」「役に立った」という気持ちから自己肯定感を育み、さまざまな目標へのチャレンジ精神を増進させること、③地域で子どもたちのスポーツの場を創ることで「相手を大切に想う」地域コミュニティーを醸成すること、この3つの目標が、会場と自宅をオンラインでつないでのイベントや、その準備にかかる活動でも可能であり、必要なことだと気付いたことも大きな成果です。

コミュニティカフェを基地にして 「自由な居場所」を子どもたちと作るプログラム

団体名：NPO法人 街カフェ大倉山ミエル



● 団体紹介

横浜市港北区大倉山を中心に、市民による地域のまちづくりを目指した活動を行う団体です。
大倉山4丁目にある一軒家をコミュニティカフェとして運営し、活動の拠点にしています。（設立 2009年）

● 助成対象活動の目的と概要

これまでのミエルの活動から、子どもや親が地域とのつながりが希薄であるとの課題感を持っています。
今回は、コミュニティカフェを拠点にして、地域の子どもや親たちが、安心して日常的に集うことのできる居場所づくりに取り組みました。特に、子どもや親たちが主体的に参加いただくようになること、活動を記録して他の場所にも波及していくことを意識して進めました。

● 助成対象活動の実績（2020年7月～2021年6月）

- **ちびっこミエル**：乳幼児を持つ親子のための居場所活動。月6回×12カ月
- **放課後ミエル**：小学生を対象とした居場所活動。月8回×10カ月。通常活動に加え「子どもジャーナリスト養成講座」、「やりたいことリスト」を考えるアンケート・ワークショップ」とその中から「逃走中」の企画と実施、YouTube動画の制作と展覧会での発表なども実施
- 『子どもと考える子どもの自由な居場所』展、2回開催
第1回：2020年11月7、8日
第2回：2021年6月8日～13日 共に@大倉山記念館
- **スクールソーシャルワーカーとの連携**：ミエルが不登校の子どもの避難場所として検討され、子ども食堂のお弁当の配食や、子どもの悩みを抱えた親のおしゃべり会（みかん会）の開催などにつながった。フードパントリーは12月から延べ13回・150家族に配食



- ① 「子どもと考える子どもの自由な居場所」展チラシ
- ② 乳幼児対象「ちびっこミエル」
- ③ 小学生対象「放課後ミエル」
- ④ 自分たちで制作したYouTubeを発表
- ⑤ 「ちびっこミエル」の作品

この1年間の成果

「ちびっこミエル」「放課後ミエル」といった子どもを中心にした活動を、ミエルの事業の柱として継続していく仕組みができてきたことが大きな成果です。子どもの居場所の重要性に気が付いた地域の大人たちが、自発的に協力し運営の中心となっています。今後も、ミエルは会場や資材の提供、情報発信といった最小限の支援を続けながら、地域の方々が自主的に運営できる「子どもの居場所づくり」を支えていきます。「1歳から101歳の居場所」という多世代の交流拠点の実現ができたことで、この活動をモデル化して展開するためのツールを作成することもでき、新しい事業のきっかけを作ることができました。毎日のように、小学生や乳幼児親子がミエルを訪れ、自発的な活動や多世代の交流が始まっています。ミエルを中心とした豊かなコミュニティができつつあると感じています。



団体名：NPO法人 レスパイト・ケアサービス萌

● 団体紹介

「レスパイト」とは「休息・息抜き」という意味です。「ご家族のほっとひと息をお手伝いします」を合言葉に、障がい児や医療的ケア児の在宅生活のQOL(Quality Of Life)向上を願い、訪問看護、障害福祉サービス、障害福祉に関する相談支援などを行っています。(設立1995年)

● 助成対象活動の目的と概要

理解者と支援者が増え、障がいのある子どもと家族が、地域で安心して豊かな生活が送れる一助になることが目的です。横浜市で在宅療養する医療的ケア児や障がい児へ、子どもとして大切な「遊び」の支援を行う「萌カフェ」をスタート、会場に集まったイベントを2回、オンラインで2回開催しました。医療や保育・介護スタッフが常駐する場で、ケアが必要な子どもや「きょうだい」が親と共に安心して遊ぶことができ、コロナ禍でも楽しむことの素晴らしさや遊びが広げるコミュニティの可能性を感じることができました。

● 助成対象活動の実績 (2020年8月～2021年7月)

「萌カフェ」全5回実施

- 第1回9/6「フライングプラネタリウム(協賛：一般社団法人 星つむぎの村)」
- 第2回10/25「秋のハロウィンファッションショー＆ちよこっと工作」
- 第3回12月「クリスマス音楽会(YouTube一般公開)」
- 第4回4/24「心魂プレゼンツ みんなで春を祝おう♪(オンライン)」
- 第5回「医療的ケアが必要な子どもたちの日常を伝える動画」の作成と公開※

※新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた「地域との交流」が実現できなかったため、萌の活動や「萌カフェ」の様子を収めた動画を作成し公開することで、活動の理解促進につなげます。



- ①子どもたちと遊ぶ萌のスタッフ
- ②第3回はクリスマスソングを動画配信
- ③第4回はNPO法人「心魂プロジェクト」メンバーが歌って踊るパフォーマンスを生配信
- ④第1回「萌カフェ」は「星つむぎの村」協賛によるフライングプラネタリウムを鑑賞
- ⑤第2回「秋のハロウィンファッションショー」チラシ

この1年間の成果

新型コロナウイルスの感染拡大が収束せず、当初予定していた対面や集合しての活動を展開できなかったことは残念でした。しかし、オンラインツールを活用したイベントで、子どもたちが遊びを通じて生き生きする姿から、子どもにとって「遊ぶことは生きること」であると再確認することができました。オンラインでも他団体との交流や保護者の交流機会ができるなど、つながるきっかけづくりができたことも成果だと思います。スタッフにとっても、この活動で得た「ただただ子どもたちと遊ぶ」という経験が、訪問での関わりに生きているように感じています。医療や介護のためだけの訪問ではなく、子どもの笑顔や家族との雑談を楽しんでいるスタッフの姿からは、子どもと関わる大人にとっても「遊ぶことは生きること」なのだと実感することができました。

プログラム概要

すべての子どもが安全・安心で心豊かに暮らせる生活環境づくりを応援したいという願いから、「東急子ども応援プログラム」を開始します。子どもは一人ひとり多様な可能性を持っています。しかし、慌ただしい生活時間や限られた人間関係の中で、可能性の芽がのびのびと育ちにくい環境があり、さらには、いじめ、引きこもり、家庭内暴力、経済的に困窮する家庭状況や、不安や困りごとなどを抱えている子どもたちもいます。地域には、そうした子どもの様子や子どもたちを取り巻く課題に気づきサポートをする、家族や学校以外の地域の大人たちの活動があり、子どもたちと家族を支えています。このプログラムでは、子どもたち一人ひとりが望む「幸せ」につながることを願って、助成金の支給などを通じて皆さまの活動を支援していきます。

1

助成対象となる活動

子どもを取り巻く社会課題の解決を目指し、安全・安心で心豊かな生活環境をつくる活動

活動例

1.子どもが安全で安心できる場を提供する活動

・居場所や子ども食堂などの活動、外国にルーツを持つ子どもたちの支援活動、シェルター活動 など

2.障がいや難病とともに暮らす子どもと家族を支援する活動

・外出支援の活動、入院児の学習支援の活動、きょうだい支援の活動 など

3.子どもの生きる力の向上につながる活動

・文化・芸術、スポーツなどを通じて健やかな成長を育む活動
・異文化を知る活動、地域や社会を知る活動、自然を体験し学ぶ活動 など

4.子どもたちの安全・安心な暮らしを支えるコミュニティをつくる活動

・支援者育成、ボランティア育成、ネットワーク支援、普及啓発活動 など

5.その他、本プログラムの趣旨に合致する活動

※このプログラムでは、活動の発展的な展開やステップアップ、新たな取り組みを重視します。

2

助成対象となる団体

1

民間非営利団体で法人格は問いません
(特定非営利活動法人、一般・公益法人、任意団体など。任意団体の場合は会則があること)

2

助成対象となる活動地域が東急線沿線の市区内※にあること (主たる事業所はそれ以外でも構いません)

※東京都：品川区・目黒区・大田区・世田谷区・渋谷区・町田市
神奈川県：横浜市 神奈川区・西区・中区・港北区・緑区・青葉区・都筑区 川崎市 中原区・高津区・宮前区 大和市

3

応募時に団体設立後2年以上の活動実績があること

4

団体のホームページやSNSなどで活動や団体概要が公開されていること

5

助成開始後、報告書の提出や報告会などへの出席に同意すること

6

団体の目的や活動が政治・宗教などに偏っておらず反社会的勢力とは一切関わっていないこと

3

助成期間・助成額・応募受付期間

助成期間 2020年7月～2021年6月（1年間）（毎年の応募・選考により最長2年までの継続助成あり）

助成額 1件あたりの助成額：50～100万円

応募受付期間 2020年2月17日（月）～3月2日（月）必着

4

選考

選考委員会による書類選考を行います。選考委員会は、学識経験者、NPO実務経験者、主催企業担当者などで構成します。

1 選考委員会

◇ 選考委員長

木下 勇 大妻女子大学教授／千葉大学名誉教授・グランドフェロー

◇ 選考委員

- ・岩田 美香 法政大学 現代福祉学部 教授
- ・桑子 敏雄 一般社団法人コンセンサス・コーディネーターズ代表理事／東京工業大学 名誉教授
- ・原 美紀 認定特定非営利活動法人 びーのびーの 副理事長・事務局長
- ・山成 敏彰 東急株式会社 社長室 サステナビリティ推進グループ 統括部長

（所属は選考委員会当時のもの）

2 選考基準

- ①**プログラム趣旨との適合性** 子どもが安全・安心で心豊かに暮らせる生活環境づくりにつながる活動か
- ②**子どもの視点** 子どもの人権と主体性を尊重し、子どもの視点に立った活動か
- ③**実現可能性** 目的、目標と計画が具体的で、スケジュール・体制・予算が適切か
- ④**地域性** 活動対象地域の課題と現状の把握に基づき、地域の関係者と連携し、地域に根差した取り組みが期待できるか
- ⑤**継続性** 助成期間終了後も継続的な活動が期待できるか

5

主催・協力団体

主催：東急株式会社

企画・運営協力：特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド

事務局後記

助成対象団体の皆さま、活動を支援・参加してくださった皆さま、1年間ありがとうございました。コロナに翻弄されながらも子どもたちに寄り添い、子どもたちの現在、近い将来、そして遠い未来の力になるようにと、試行錯誤しながら活動を実現してくださいました。視察で出会った子どもたちの嬉しそうな素敵な笑顔が思い出されます。当たり前でできていた活動ができない、普通に過ごすことさえ難しい状況への悔しさをも原動力に、「子どもたちのために」とたくましく活動される助成対象団体の皆さまの姿に心を打たれました。私たちはこれからも、皆さまの活動を一人でも多くの方に知っていただき、温かい思いやりの輪が広がることを願い、このプログラムを続けていきます。

東急子ども応援プログラム事務局 古怒田・岡田・近藤



東急株式会社
社長室 ESG推進グループ 社会活動推進担当
東急子ども応援プログラム事務局

〒150-8511 東京都渋谷区南平台町5-6
Email : kodomo@tkk.tokyu.co.jp